

☆年間第27主日(10月8日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

**第一朗読 (イザヤの預言 5章 1-7節)**

わたしは歌おう、わたしの愛する者のために、そのぶどう畑の愛の歌を。  
わたしの愛する者は、肥沃な丘にぶどう畑を持っていた。  
よく耕して石を除き、良いぶどうを植えた。  
その真ん中に見張りの塔を立て、酒ぶねを掘り良いぶどうが実るのを待った。  
しかし、実ったのは酸っぱいぶどうであった。  
さあ、エルサレムに住む人、ユダの人よ  
わたしとわたしのぶどう畑の間を裁いてみよ。  
わたしがぶどう畑のためになすべきことで、何か、しなかったことがまだある  
というのか。  
わたしは良いぶどうが実るのを待ったのに、なぜ酸っぱいぶどうが実った  
のか。  
さあ、お前たちに告げよう、わたしがこのぶどう畑をどうするか。  
囲いを取り払い、焼かれるにまかせ、石垣を崩し、踏み荒らされるにまかせ  
わたしはこれを見捨てる。  
枝は刈り込まれず、耕されることもなく  
茨やおどろが生い茂るであろう。雨を降らせるな、とわたしは雲に命じる。  
イスラエルの家は万軍の主のぶどう畑、主が楽しんで植えられたのは  
ユダの人々。  
主は裁き(ミシュパト)を待っておられたのに、見よ、流血(ミスパハ)。  
正義(ツェダカ)を待っておられたのに、見よ、叫喚(ツェアカ)。

**答唱詩編 (詩編 80章 9-10, 15-16, 18-19節)**

神よ、わたしに目を注ぎ、強めてください、手をさしのべて。

あなたはぶどうの木をエジプトから移し、  
他の民を退けてそこに植えられた。  
まわりが耕され、その木は根を張り、生い茂った。

すべてを治める神よ、あなたの目を注いで、  
またこのぶどうの木を顧みてください。  
あなたがご自分で植えられた苗と、強められた若枝を守ってください。

あなたの手はあなたの右腕である人の上に、強められた民の上に。  
わたしたちはあなたから離れることなく、  
いのちであるあなたを呼び求める。

### 第二朗読（使徒パウロのフィリピの教会への手紙 4章 6-9節）

皆さん、どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

### 福音朗読（マタイによる福音書 21章 33-43節）

そのとき、イエスは祭司長や長老たちに言われた。「もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がぶどう園を作り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸して旅に出た。さて、収穫の 때가近づいたとき、収穫を受け取るために、僕たちを農夫たちのところへ送った。だが、農夫たちはこの僕たちを捕まえ、一人を袋だたきにし、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。また、他の僕たちを前よりも多く送ったが、農夫たちは同じ目に遭わせた。そこで最後に、『わたしの息子なら敬ってくれるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った。農夫たちは、その息子を見て話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものにしよう。』そして、息子を捕まえ、ぶどう園の外にほうり出して殺してしまった。さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たち

をどうするだろうか。」彼らは言った。「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがない。」イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。」

『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』  
だから、言うておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる。」

### 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

爽やかな日曜日になりました。昨日 7 日(土)はロザリオの聖母の記念日でした。世界中の信徒に愛されている祈りと言っていいでしょう。日曜日のミサの前にも一緒に唱えていますので、少し早めに来て祈りに参加してみたいかがですか。今日のミサの朗読は私たちに何を語るのでしょうか。耳を澄まして聴きましょう。

### 第一朗読 (イザヤの預言 5 章 1-7 節)

「私の愛する者のブドウ畑」すなわちイスラエルの民のことを指しています。イスラエルの神である主はイスラエルのために。石を取り払い、よく耕してその収穫を待ったのですが、イスラエルの民は主の望みに反して、酸っぱいぶどうを实らせたのです。つまり主の望みに従わず、逆らい続けたのです。預言の後半ではイスラエルの逆らいに対し、主がどれほど怒りを宿されたかが語られています。今日の福音に気持ちをつないでいます。

### 答唱詩編 (詩編 80 章 9-10, 15-16, 18-19 節)

かつてイスラエルの民は主なる神によってエジプトの地から、約束の地に植え替えられたことを思い起こしています。そこでは周りが良く耕され、ブドウの木は音を良く張ったのです。今困難の中にあるイスラエルをまた守って

くださいと歌っています。

## 第二朗読（使徒パウロのフィリピの教会への手紙 4章 6-9節）

今日の手紙ではとても慰めの多い言葉が語られています。「思い煩わないように・・・」というフレーズは、皆さんがよく聞く大好きな聖書の言葉ですね。また私たちの目指すありかたをパウロは書き留めてくれています。「すべての真実なこと、すべての気高いこと、・・・」というフレーズです。「そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます」と結んでいます。素敵な聖書の言葉ですね。

## 福音朗読（マタイによる福音書 21章 33-43節）

イエスは引き続きイスラエルの指導者たちに語り掛けます。ブドウ園の主人は神です。ブドウ園はイスラエルの民です。主人はそのブドウ園を農夫たちに任せて旅立つのですが、野夫たちは主人の望みではなく、自分たちのブドウ畑にしようと企み、主人の僕たち(預言者、士師、王たち)を痛めつけたり殺したりします。最後には神である主人は自分の息子を送って、農夫たちのたくらみを改めさせようとするのですが、その息子さえも殺してブドウ園の外に投げ捨てるのです。父なる神から遣わされた独り子であるイエスがエルサレムでひどい目にあわされ、場外のゴルゴタで十字架に付けられて死ぬことが示されたのです。悪企みを実行した農夫たちは罰せられ、他の良い農夫に与えられるのです。私たちは良い農夫でしょうか、それとも・・・。



10月2日は守護の天使の祝日でした。(足立サレジオ幼稚園の守護の天使のステンドグラス)

**P.S.**

ロザリオの月です。「日々の祈り」の中で一緒にこのロザリオの祈りを唱え  
ましょう。

**カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光**